

佛教大学二条キャンパス

平安京右京三条一坊六町（藤原良相邸、西三条第、百花亭）の調査

（財）京都市埋蔵文化財研究所 丸川義広

1 仮名文字の発生

(1) 万葉仮名 草仮名 平仮名と片仮名

(2) 9・10 世紀の仮名文字資料

多賀城跡漆紙文書、9 世紀中頃

藤原有次申文（讃岐国司解端書、867 年）

東寺食堂千手観音像胎内檜扇（元慶元年十二月、877）

富山県射水市赤田 I 遺跡 土師器坏（糸切り底）9 世紀後半～

紀貫之筆土佐日記（藤原定家臨摸本）、10 世紀前半 原本は 945 年以前

醍醐寺五重塔初層の天井板落書、951 年

(3) 平安京出土の仮名文字資料

左兵衛府・侍従所間 溝 SD 1 土師器 杯 10 世紀初め

右京一条三坊二町 溝 202 土師器皿 10 世紀初め

左京三条三坊九町 SX10 須恵器鉢（江戸時代の遺構から出土）

平安宮内裏北西部、土師器高杯、皿、10 世紀

平安宮内裏内郭北西部 SK22 白色土器三足盤・土師器皿 11 世紀

2 西三条第の史料

(1) 拾芥抄 西京図 右京三条一坊六町に「西三条」とある。

(2) 『日本三代実録』の記事

貞観元年（859）4 月 18 日条「皇太后が東宮から右大臣西京三條第に遷る」。

貞観 2 年（860）4 月 25 日条「皇太后が右大臣西京第から東五條宮に遷る」。

貞観 8 年（866）3 月 23 日条「清和天皇が良相西京第に幸す」。

貞観 9 年（867）10 月 10 日条「藤原良相薨伝」

3 発掘調査

(1) 経過 1 区（2011 年 4 月～）、2 区（2011 年 6 月～）、3 区（2011 年 8 月～12 月）

(2) 遺構 1 期（9 世紀前半）SB01、柱列 6、井戸 470、池 300、池 370、溝 400、土坑 44
2 期（9 世紀後半、西三条第）SB02、建物 1・2・3・4・5、池 250、溝 43

(3) 池 250 から出土した遺物

土師器：皿、杯、杯 B、高杯、盤、甕、羽釜、鉢。

黒色土器：椀、甕、鉢、ミニチュア椀、ミニチュア鉢、小壺、黒色土器硯。

須恵器：杯、杯蓋、皿、椀、鉢、壺、甕。

緑釉陶器：椀、皿、耳皿、香炉身・蓋、壺。産地：猿投、山城、近江、美濃、防長。

白色土器：椀、皿。 灰釉陶器：椀、皿、壺蓋、壺。

青磁：椀、合子身・蓋。白磁：椀、皿、壺。

銭貨：長年大寶 2 枚（848 年）、饒益神寶 1 枚（859 年）、貞観永寶 3 枚（870 年）。

金属製品：鉄釘、鉄鋌、銅鏃、鉄鏃、毛抜、火箸、板状製品、鉄板、飾鋌。

石製品：石帯（巡方・蛇尾）、経軸端、基石、砥石、凝灰岩、石硯。

木製品：木簡、横櫛、檜扇、浮子、弓、柄、曲物、折敷、下駄、車輪形、舟形。

4 墨書土器 調査で約 90 点出土した。うち池 250 からは 75 点で土師器が 54 点ある。

(1) 仮名 墨 14「かわらけ乃…もたい あまりて すきな比とにくしとお（も）は礼…」＝カワラケ モタイ 余りて、好きな人憎しと思われ…、墨 8「れな わあな」。墨 54「かくは たに はら」。太い筆を用いる。墨 66 は高杯の脚部全面に細かな文字。黒色土器椀の底部に墨書「は」がある。

(2) 漢字 墨 42「大（身）雁（夫）（夫）夫」「夫 天 飯（米）」、墨 64「三条院鈎（鈎）殿高坏」、墨 65「政所」土師器高杯の脚に 2 方向、墨 43「雑離」、墨 62「膳所」、墨 71「兵 兵 兵」、墨 72「四条」、墨 74「庄」「庄」、墨 75「太」墨 79（池 117）「専師」、墨 82（井戸 470）「酒杯」。

5 藤原良相との関連が想定される出土遺物

(1) 武官に關係する遺物：鉄鏃、木製弓、須恵器壺（墨 71）に「兵 兵 兵 兵」。

(2) 仏教的要素がみられる遺物：水晶製の経軸端＝経典が存在、仏器の器形＝黒色土器の鉢、小壺、墨書土器「雑離」（墨 44）は写経、墨書土器「太一」は北極で真言・道教。

(3) 女性的要素を示す遺物：墨書土器が「女手」の仮名文字、青磁合子と緑釉香炉が小型品、毛抜き、基石、櫛が多い。檜扇が多い、ミニチュア土器。「政所」墨書土器。

6 西三条第・百花亭と染殿・望遠亭について

『日本三代実録』によれば、清和天皇は貞観 8 年（866）3 月 23 日条に西三条第に行幸されたあと、8 日後の閏 3 月朔には藤原良房の染殿に行幸された。鈎殿と鈎台、百花亭と望遠亭、桜花の咲き具合などに違いがみられる。応天門の変直前の微妙な時期で、興味深い。

7 仏頂尊勝陀羅尼について

『今昔物語集』巻第 14 の第 42 には「尊勝陀羅尼の験力に依りて、鬼の難を遁れたる語」として、藤原良相の長男常行が夜遊びの途中、百鬼夜行に遭遇し、尊勝陀羅尼を襟元に縫い付けおいて鬼の難から逃れたとする説話が載せられている。仏教界とのつながりが背景にあったとてよい。

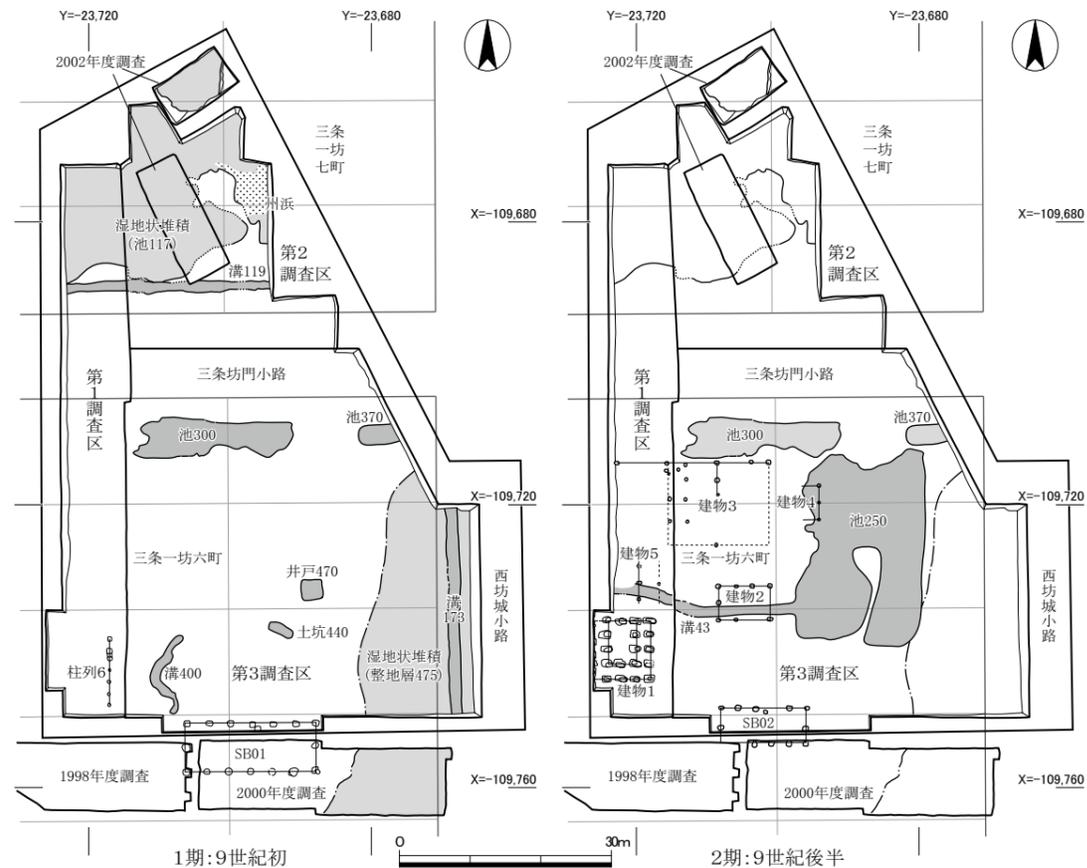
「西三条第」の主であった藤原良相は文学に造詣が深く、信仰心の篤い人物と評されてきた。池 250 から出土した様々な遺物には、それを裏付けるものがある。貞観 8 年（866）閏 3 月 10 日に起きた応天門の変では、伴大納言（善男）に与したため兄藤原良房と対立した。のち失脚、政治への関心を失い、翌年死亡した。良相の長男常行も貞観 17 年（875）に死亡したため、西三条第は急速に衰退したとみられる。池 250 西岸から出土した大量の遺物は、良相家の人々が当地を立ち去る際に廃棄したものが含まれるであろう。

出土した仮名文字をもつ墨書土器は、現在までのところ平安京では最古の出土例である。これまで地方の役所跡などで少量出土していたが今回は、9 世紀後半まで確実に遡ること、点数が豊富なので筆の違いが認識できうること、邸宅の主が右大臣藤原良相という、文学と信仰に造詣が深かった人物と判明するなど、仮名文字の発生と展開にとってきわめて重要な内容が含まれている。

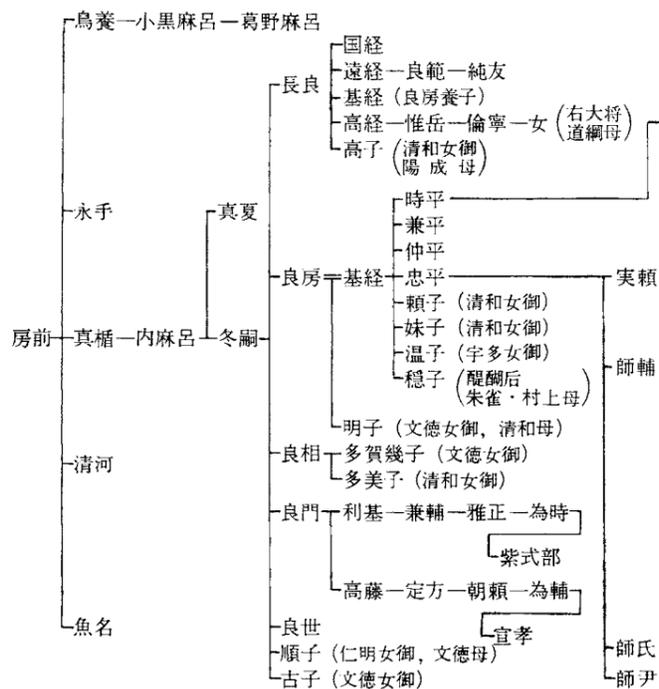


漫画に描かれた藤原良相像

『少年少女日本の歴史4』「平安京の人びと」小学館（一部改編）



遺構の変遷図 (1:1,000)



『角川日本史辞典』角川書店

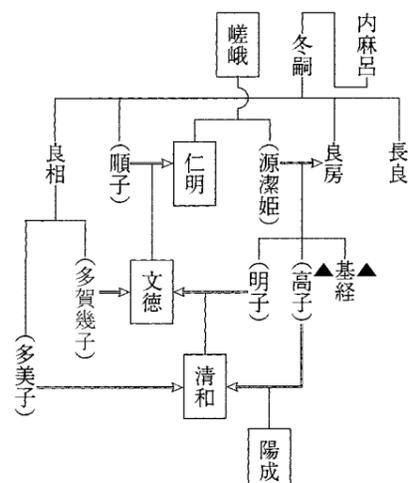
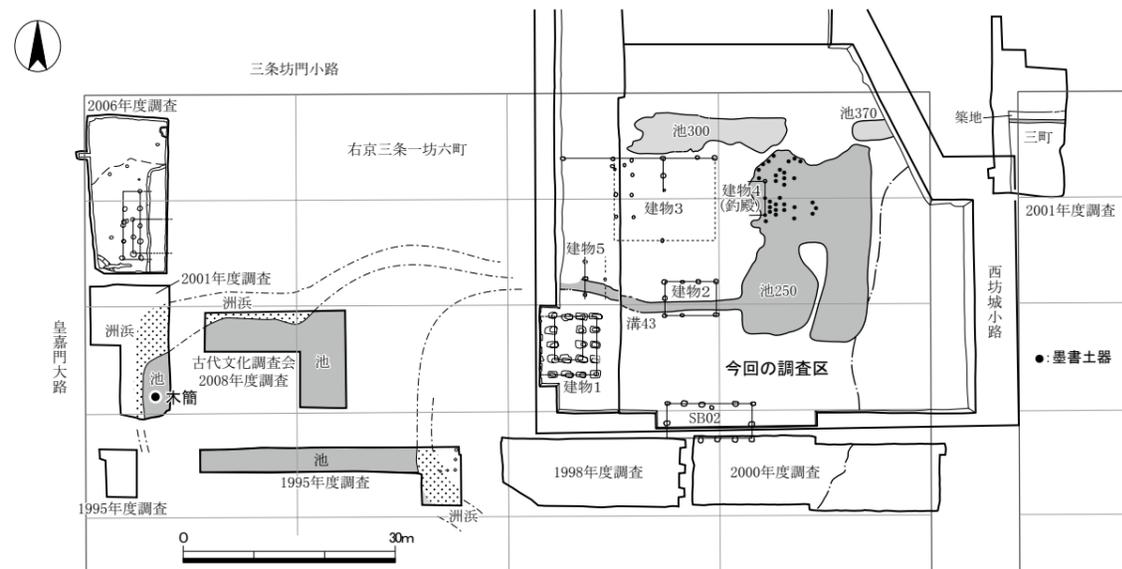


図12 桓武王統と藤原氏北家間の子女交換。▲は兄長良の子を養子とした

『歴史のなかの大地動乱』(岩波新書) 岩波書店（一部改編）

藤原氏系図



西三条第北半部の遺構配置図 (1:1000) (2期に該当)

開元之所宜其改天安三年以爲貞觀元年將使皇猷正一被群品以用全實曆延長均兩儀以年遠是日神祇官卜以參河國播豆郡爲悠紀美作國英多郡爲主基○十八日癸卯皇太后遷自東宮御右大臣西京三條第去年八月廿九日與今上同輿遷自冷然院御於東宮擬遷五條宮暫御大臣第爲避忌也進參議從三位行皇太后宮大夫伴宿祿善男階加正三位亮從五位下三統宿祿眞淨從五位上行右近衛權少將兼周防權守藤原朝臣常行正五位下常行右大臣之第一男也新鑄印一

錄言上自今以後永爲歲事以爲國新也○廿二日壬寅地震○廿四日甲辰從五位下藤原朝臣高能子授從四位下无位藤原朝臣度茂子從五位下○廿五日乙巳皇太后遷自右大臣西京第御東五條宮授從五位上行右近衛權少將兼周防權守藤原朝臣常行正五位下常行右大臣之第一男也新鑄印一

三日己亥鸞輿幸右大臣藤原朝臣良相西京第觀櫻花喚文人賦百花亭詩預席者卅人四位四人五位八人六位廿八人天皇御射庭賜親王以下侍從以上射左右近衛中少將預焉中鶴者賜布伶官奏樂玄鬘稚齒十二人遞出而舞晚奏女樂歡宴竟日賜扈從百官祿各有差夜分之後乘輿還宮是日進參議右大臣從四位上兼行播磨權守大枝朝臣音人參議右近衛權中將從兼備前權守藤原朝臣常行參議左近衛中將兼伊豫守藤原朝臣基經階並加正四位下授從五位上行少納言兼侍從藤原朝臣諸葛正五位下從五位下左兵衛權佐藤原朝臣直方從五位上散位正六位上大枝朝臣氏雄木工少允從七位下布勢朝臣眞繼並從五位下外從五位下伊統朝臣善子從五位下已上叙位並是宴餘之殊弊也○廿八日甲辰甲斐國從五位上勳十二等物部神美和神並授正五位下從五位下宇波刀神從五位上大和國平城京內田地十六町三段百廿步賜從四位下行山城權守在原朝臣善淵先是善淵奏言奉爲平城太上天皇建精舍於陵次買得舊京荒地聖闕爲田充修理精舍之資而內藏寮稱格旨收爲勅旨請願恩許永爲私田詔許之○閏三月丙午鸞輿幸太政大臣東宮染殿第觀櫻花王公已下及百官扈從天皇御釣臺觀釣魚遷射殿御弓矢王公已下以次射御東門覽耕田農夫田婦雜樂皆作還望遠亭覽翫

○廿

三代實錄卷十二 清和天皇(貞觀八年三月一日閏三月) 一七九
三代實錄卷十二 清和天皇(貞觀八年閏三月) 一八〇
花樹伶人陪於歌榭鼓鐘脩陳絲竹繁會童男妓女花間迭舞喚能屬文者數人賦落花無數雪詩終日樂飲皇歡是洽群臣具醉宴竟親王已下五位已上及六府將監尉已下賜祿各有差五位已上未得解由者預焉日暮車駕還宮是日召集京城貧窮者於鴨河邊以新錢五萬文飯二千五百餐頒給焉於近京册三ヶ寺轉讀金剛般若經般若心經○五日庚戌地震授近江國正六位上天社神從五位下加賀國司言居住國內之輩便任國司并士民爲博士醫師者二ヶ年間不給事力勅許之但得試之人不在此限○七日壬子進伊豫國從三位大山積神階加正三位近江國從四位上山津照神伊豫國從四位上磯野神野間天皇神伊豫村神並授正四位下近江國從四位下勳八等伊香神伊豫國從四位下瀧神並從四位上山城國正六位上降居神從五位下○十日乙卯夜應天門火延燒樓鳳翔鸞兩樓○十三日戊午伊

貞觀元年(859) 4月18日条 「皇太后藤原順子滯在」
貞觀2年(860) 4月25日条 「西三条第行幸」
貞觀8年(866) 3月23日条 「染殿行幸」
閏3月1日条 「應天門炎上」
閏3月10日条 「藤原良相薨伝」

皇不視事三日良相朝臣者贈太政大臣正一位冬嗣朝臣之第五子也姉太皇太后兄太政大臣忠仁公並與大臣同胞也大臣年在童稚局量開曠及於弱冠始遊大學雅有才弁承和元年仁明天皇徵令侍禁中拜右兵衛權大尉遷內藏助五年授從五位下明年轉頭兼因幡守小頃遷左近衛少將內藏頭因幡守如故八年授從五位上十年加正五位下遷阿波守內藏頭左近衛少將如故十三年至從四位下轉中將餘官如故嘉祥元年拜參議二年兼相摸守同年秋拜右大弁相摸守如故三年授從四位上數月加正四位下尋領陸奥出羽按察使未幾遷左大弁兼春宮大夫仁壽元年授從三位拜權中納言四年轉大納言兼右近衛大將齊衡二年進正三位四年拜右大臣天安元年授從二位遷左近衛大將貞觀元年授正二位嘗仁明天皇煎煉五石試觀近侍先嘗欲知精粗黃門數輩無飲服之者大臣引杯一舉而盡帝感藥劑之問君臣不忘義焉室大江氏臨大臣生年卅餘歲卒於舊寢大臣本習內典精熟真言至是撤却腥鮮尤事念佛自喪江氏无復娶妻貞觀之初專心機務志在匡濟當時飛鷹從禽之事一切禁止山川藪澤之利不妨民業皆是大臣所奏行也爲人至性意深睦親勸學院南邊更建一院号延命院以養治藤氏生徒病困无家業者以東京六條宅名崇親院引氏中子女不能自存者以收養並皆割封戶又庄田給其資用崇親院中建一小堂安置佛像令居住者每旦盥洗誦觀音名号以植後世之善根自製願文多詞不載焉愛好文學之士擇大學中貧寒之生時賜綿絹冬天慘烈多縫造被遍賜四學堂夜宿者時節喚學生能文者賦詩賞物數矣是年十月初直盧得病退就第歸同月十日告諸子曰今日輿福寺維摩會之初講是五閻浮業之終夕也儻以此日歸吾寂滅舊鄉安知身彼法會不有因緣乎臨終乃命侍兒扶起正而西方作阿彌陀佛根本印俄薨時年五十五遺言令薄葬單衣覆棺大臣蔬菲累年羸瘦過甚迄終一身不虧宿誓其篤信佛道臨命正念時人比之姚伯審有子男女九人長子常行官至大納言自有傳次直方忠方並以才行見稱忠方敏工隸書

貞觀9年(867) 10月10日条 「藤原良相薨伝」

尊勝陀羅尼の験力に依りて、鬼の難を遁れたる語 第四十二

今昔、延喜の御代に、西三条の右大臣と申す人御けり。御名をば良相とぞ云ける。其の大臣の御子に、大納言の左大將にて常行と云ふ人御けり。其の大將未だ童にて、勢長の時まで、冠をも不着してぞ御ける。其の人の形美麗して、心に色を好みて、女を愛念する事並無かりけり。然れば、夜に成れば家を出て東西に行くを以て業とす。

而る間、大臣の家の西の大宮よりは東、三条よりは北、此れを西三条と云ふ。其れに、此の若君み、東の京に愛念する女有ければ、常に行きけるを、父母夜行を恐て強に制し給ひければ、窃に、人にも不令知ずして、侍の馬を召て、小舎人童馬の舎人許を具して、大宮登りに出で、東さまに行きけるに、美福門の前の程を行くに、東の大宮の方より多の人、火を燃して噓て来。若君此れを見て云く、「彼れ何人の来るなるらむ。何にか可隠き」と。小舎人童の云く、「屋る見候つれば、神泉の北の門こそ開て候ひつれ。其れに入て、戸を開て、暫く御まして令過め給へ」と。若君喜て馳て、神泉の北の門の開たるに打入て、馬より下て柱の本に曲り居ぬ。

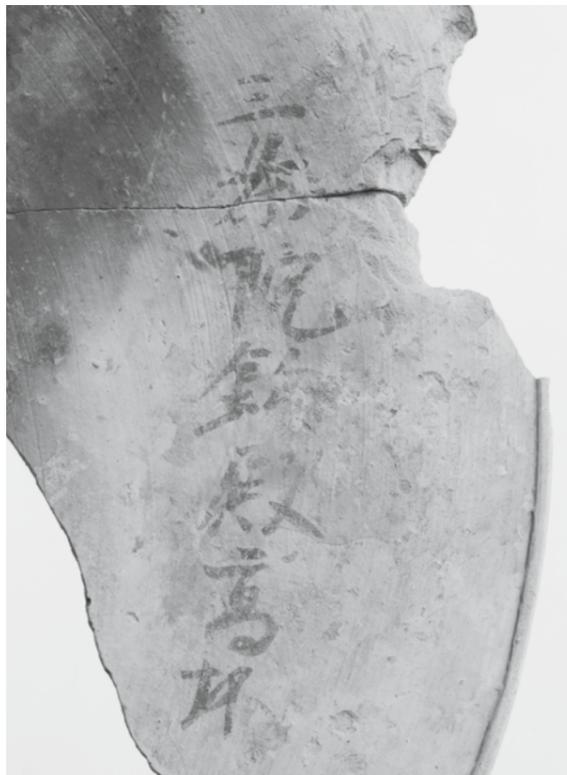
其の時に、火燃たる者共過ぐ。「何者ぞ」と戸を細そ目に開て見れば、早う、人には非で鬼共也けり。様々の怖し気なる形也。此れを見て、「鬼也けり」と思ふに、肝迷ひ心碎て、更に物の不思議。目も書て臥たるに、聞けば、鬼共過ぐと云なる様、「此に気はひこそすれ。彼れ搦め候はむ」と云て、者一人走り保て来なり。「我が身、今は限りぞ」と思ふに、近くも不寄来ずして走り返ぬなり。亦音有て、「何ぞ不搦ざる」と云へば、此の来つる者の云く、「否不搦得ざる也」と云ふに、「何の故に不搦ざるぞ。懼に搦めよ」と行へば、亦他の鬼走り来る。亦前の如く近くも不寄来ずして走り返ぬ。「何ぞ。搦たりや」と云ふに、「尚、不搦得ざる也」と云へば、「怪き事を申すかな。我れ搦めむ」と云て、此く搦つる者走り保て来るに、始よりは近く来て、既に手係く許り来ぬ。「今ぞ限り也ける」と思ふ間に、亦走り返ぬ。「何に」と問ふなれば、「実に不搦得ざる、理也けり」と云へば、亦、「何なれば然るぞ」と問ふなれば、「尊勝真言の御ます也けり」と云ふに、其の音を聞て、多く燃たる火を一度に打消つ、東西に走り散る音して失ぬ。中々、其の後、頭の毛太りて物不思議。

然れども、此くて可有き事に非れば、我れにも非で馬に乗て、西三条に返ぬ。曹司に行て、心地極て悪しければ、弱ら臥ぬ。身に暑く成たり。乳母、「何くに行き給つるぞ」と、「殿、御前の此く許合申め給ふに、「夜深く行かせ給ふ」と聞かせ給はゞ、何に申させ給はむ」など云て、近く寄て見るに、極て苦し気なれば、「何ぞ苦し気には御ますぞ」と云て、身を掻き搜れば、極て暑し。然れば、乳母、「此は御ますぞ」と云て、迷よふ。其の時に、若君有つる様を語り給ければ、乳母、「奇異かりける事かな。去年、己れが兄弟の阿闍梨に云て、尊勝陀羅尼を合書て、御衣の頸に入れしが、此く貴かりける事。若し不然ましかば、何ならまし」と云て、若君の額に手を当て、泣く事無限し。此くて三四日許暑して、様々の祈共被始めて、父母も驚き給ひけり。三四日許有てぞ、心地直たりける。其の時

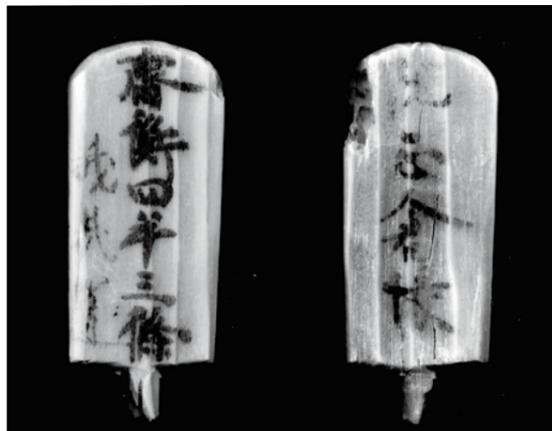
に、麴を見ければ、其の夜、忌夜行日に当たりけり。此を思ふに、尊勝陀羅尼の靈験極て貴し。然れば、人の身に必ず可副奉き也けり。若君も其の尊勝陀羅尼の頸に有りて云ふ事不知給りけり。其の比、此の事を聞き及ぶ人、皆尊勝陀羅尼を書て守にしてなむ具し奉けりとなむ語り伝へたとや。

「三条院釣殿高坏」 — 墨書土器から邸宅名が判明 —

<http://www.kyoto-arc.or.jp>
(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



「三条院釣殿高坏」墨書高杯



「斉衡四年」題箋木筒

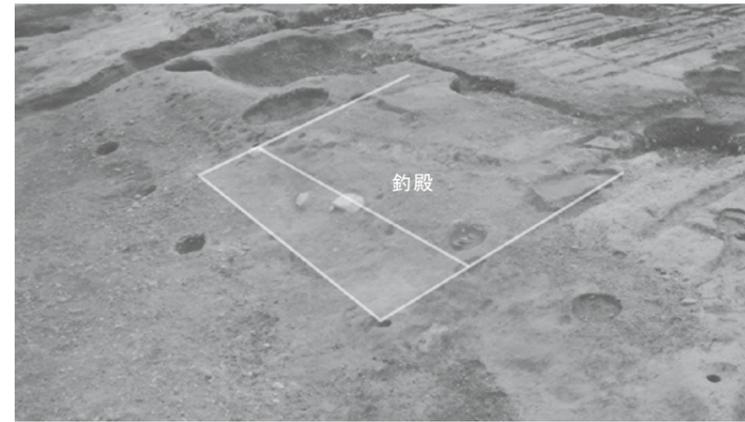


「政所」墨書高杯

西三条第 平安京の右京三条一坊六町は、南北朝時代初期に洞院公賢が書き記した『拾芥抄』「西京図」に「西三條」の書き込みがあり、平安時代前期の公卿、藤原良相(813～867)の邸宅「西三条第」推定地とされてきました。2011年に六町北東部を調査したところ池が見つかり、大量の遺物が出土しました。その中に「三条院釣殿高坏」と墨書した土器があり、調査地が史料にみえる「西三条第」であることがほぼ確実となりました。平安京内の邸宅跡で、出土資料によって邸宅名が特定できたのは初めての事です。

西三条第については、『日本三代実録』に3回登場します。貞観元年(859)4月18日条、貞観2年(860)4月25日条、貞観8年(866)3月23日条で、はじめの2回の史料は、良相の実姉、藤原順子(皇太后、仁明天皇皇后、文徳天皇生母)が約1年間滞在したことが記されています。3回目の史料は、清和天皇が当邸に行幸し、桜花を観望したり、文人を集めて「百花亭」の詩を詠んだとあり、9世紀後半の早い段階に当邸が盛んに用いられたことがわかります。
「三条院釣殿高坏」墨書高杯 この高杯は池の西岸で多くの遺物に

混じって出土しました。杯部の上面に「三条院釣殿高坏」と墨書しており、「所在地・使用場所・器形」が記された、本当にありがたい土器です。
ところで、墨書の文字は「西三条第」が「三条院」となっていますが、これは皇太后藤原順子が約1年間当地に滞在したため「院」の文字が用いられたとみられます。つまり当地が皇太后御所となっていたため、三条院と称することが許されたのでしょう。
「斉衡四年」木筒 三条院については、このたび改めて重要な発見がありました。2002年の調査で、



池の西岸で見つかった釣殿の遺構(北東から)

池の中から題箋木筒が出土しました。当時「斉衡四年三條」「口正倉帳」と判読されましたが、改めて注目したところ、□の部分は「院」と判明し、「三條(條)院」の文字史料がすでに出土していたことがわかったのです。斉衡4年(857)は皇太后順子が当邸に滞在する2年前に当たり、この時すでに「三條院」と呼ばれていたことを示しています。2つの「三條(條)院」資料が別地点から出土したことの意義は大きいといえます。

釣殿の遺構 墨書土器が出土した池の西岸には礎石2基と抜取穴が南北に並び、その東には柱穴も

並びます。つまり西側から池内に及ぶ建物があり、池上には縁が造られていたことまで推定できました。これが「釣殿」の遺構であることは、一般的にいわれる寝殿造建物配置からみても明らかです。つまりこの墨書土器は、まさにこの場所で使われていたのです。

「政所」墨書高杯 先の墨書土器のわずか東で、「政所」と墨書された高杯も出土しました。墨書は七角形に面取された脚部の2方向に描かれています。「政所」とは、邸宅内の事務その他を執行する家政機関とされますが、ここで「三条院」墨書土器といっしょに出土したと

なると、当然皇太后御所との関連が想定されます。つまり皇太后の身の世話をする機関が付近に存在し、そこで使われた土器がこの高杯だったのでしょう。

西三条第の遺構 調査によって西三条第北東部の様子が判明してきました。長方形の大きな池がありました。この池の南西部には溝が取り付け、西側の別の池に水を流していました。建物は全般に小さく、東西棟が南北に独立して配置されました。池の西岸には釣殿があり、その西側も柱穴があることから、広い床をもった建物が推定できました。南西の建物は柱穴が大きく、立派な建物であったと推定できます。建物からは遠くが望めたはずで、桜花の季節、ここから眺めれば、池越しにすばらしい風景が広がっていたことでしょう。そこで文を能くする貴族たちを集めて詩が競わされました。「百花亭」という美しい別称は、このような場面から記録されたのでしょう。

(丸川義広)

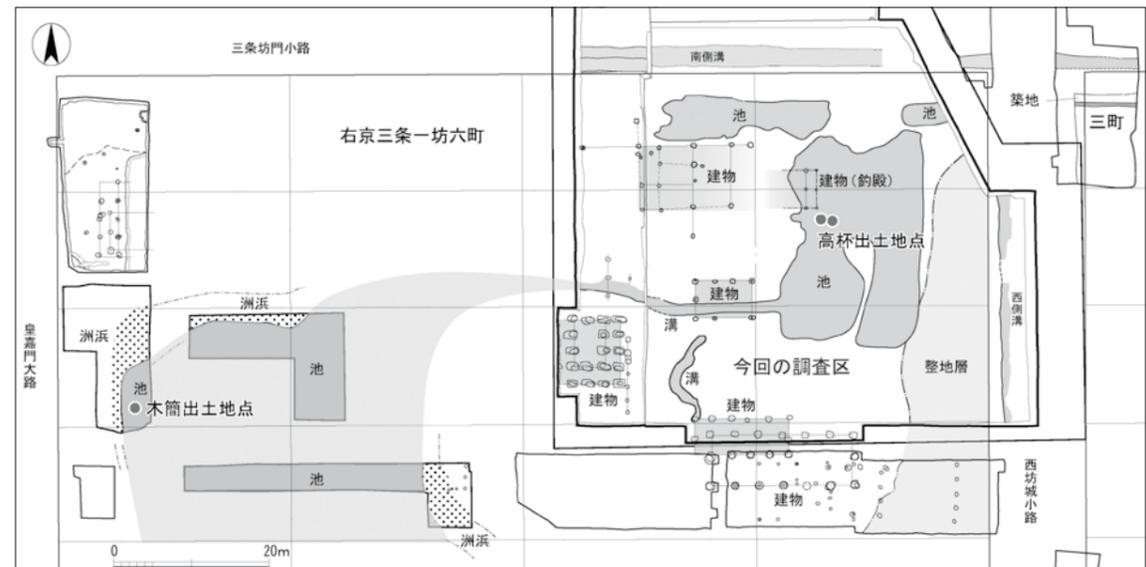


図1 西三条第北西部の遺構配置